



問

答

白方コミセン隣接地に多目的広場の確保を
農地保全の考えから土地購入は考
えていない

新政会 川崎 和典 議員

議員 白方コミセンは、今から20年前に造られたもので当時のニーズは取り入れて設計されたものと思う。

現状は、白方コミセンの駐車場が狭く、避難場所、コミセンでのイベント時には不十分である。コミセン南西側の土地を確保して避難時の駐車場として避難受入等に活用する。

平時は、地域のスポーツ（グラウンドゴルフ、キャッチボールやサッカーのパス等）やコミセンや白方小のイベント時に駐車場として活用してはどうか伺いたい。

総合政策部長 白方コミセンのイベ

ント、白方小の運動会又は授業参観等には路上駐車が多く問題となっている事は承知している。白方コミセンは敷地面積10,645㎡で村内で1番広くかつ75台が駐車できる。



白方コミセン・白方小の環境

又重要総合プロジェクト「食と農のふるさとづくり」の観点、行政自らが農地転用することには慎重さが求められ、農地保全の考えから現時点で土地購入は考えていない。



問

答

原災指針の30kmと拡散予測図の関連は如何？
予測図は参考、原災区域設定は指針に従う

無会派 相沢 一正 議員

議員 パブコメもなく突如出された原子力災害対策指針は現行の地域防災計画策定方針とどう違うか。また指針と放射性物質拡散予測図はどう関係するか。

経済環境部長 指針ではPAZ、原発から半径5km、UPZ30kmがおよよその原子力災害対策重点区域として設定され、情報提供、モニタリング、被曝評価などの体制整備や緊急時の意志決定の基準設定などが示された。

放射性物質拡散予測図は、災害対策区域の決定の参考として示された。あくまでも参考データなので村としては、指針が示した区域で対策範囲を設定する。

議員 現行の策定方針は過酷事故は起こらない事を前提していたが、今

回の指針は、起こるとしている所が決定的な違いだ。福島原発事故を踏まえると30km圏内の人の避難はできないとの知事談話もあり、担当部局としてどう考えてるか聞きたかった。

防災計画策定は再稼働問題とは切り離して考えるべきだ。



避難訓練風景